

		音楽研究会 部会記録				
日時		平成30年 6月 6日(水) 15:30～16:45				
部会名		研究部 授業実践部会、管楽器部会			主任	田中 亜由美
参加数		48(実践部会42名 管楽器5名)		司会	須田 直之	記録 岩本 育代
研修内容	二部会合同【器楽指導研修】模擬授業を通して					
	講師 東希望ヶ丘小学校校長 村上 雅基 先生 場所 横浜市立桜岡小学校					
	提案 横浜市立高舟台小学校 今泉 美保 先生					
	主題 「楽器の音をきいて合わせて演奏しよう」					
	教材 3年生「ゆかいな木さん」第2時					
	共通事項 音色 拍の流れ 音の重なり					
	授業の流れ			参加者からの意見・講師の助言		
	○鍵盤ハーモニカの旋律を演奏する(ゆっくりのテンポで演奏する)			【講師より】鍵盤ハーモニカは「楽器」。ぶっきらぼうにならないようにテヌートで丁寧に演奏する。フレーズを意識して先生がまず「いい音」で範奏することを心掛けてほしい。		
○リコーダーパート、低音パートなど他のパートの範奏を聴いて気づいたことを発表する。			＜予想される児童の発言＞ ・音が少ない・音が長い・リコーダーとリズムが同じ ・音が低い・低音はドとソしかない			
○やってみたい楽器を選ぶ(楽器とふれあう時間を十分つくる)			【講師より】選ぶときに目的意識をもって活動できるように先に声をかける。今回の場合は共通事項の「音色」。「いい音で演奏できるように選んでね。」と声をかけておけば子どもたちは意識して楽器と触れ合うはず。			
○合奏で楽器ごとまたは拍がずれている演奏だった場合、どんな声かけや活動をするか。			・バスオルガンは音色の種類を統一する。 ・パートごとに確認するときは待っているパートの児童が拍打ちをして助けてあげる(参加型) ・まずはパートごとに丁寧に確認する。 ・自分のパートを階名唱して合わせる・・・他のパートとのかかわりに気づくこともある。 ・手(リズム打ち)足(拍打ち)口(階名唱)などを同時にやってみてもよい。 ・手と足のリズムをずらすのは逆に難しい。			
○「音の重なり」を意識させるには			【講師より】 第1時から「音色」に着目させるように指導する。第2時で「音の重なり」をポイントでおさえる。			

		9小節目の1拍目だけ縦で合わせる・・・1度→5度→3度の順で重ねて美しさを感じられるようにする。 3年生は「音の重なり」、5・6年生は「和声の響き」ハーモニーは中学年で聴き味わっておく。 今回の授業で共通事項に「リズム」が入っていれば指導法は変わる・・・どこに重点を置くかが重要。 創意工夫を思考・判断力へつなげる。第1時から教師がねらう共通事項を常に意識して進めていく。
	打楽器奏法研修 講師 横浜市立鶴見小学校 田中 亜由美先生	○音を出さずに持たせるには 低学年・・・抱っこして 高学年・・・おなかにつけて ○「小さい音で」と言ってしまうと打楽器パートの人は困ってしまう。「やさしい音で」と声をかければ児童は奏法を工夫する。 ○タンブリン わきの穴はスタンドに固定するときの穴なので指は入れない。たたくのは指先で皮を押さえた指の近くを5本指でたたく。 ○すず 基本は手首を打つ。細かいリズムの時は手首を振ってもよい。 ○カステネット 結び目が下になるようにする。児童に指導するときはピースを作って2本指で打つ。 ○クラベス なるべく手との設置面積を少なくする。手の腹部分を活用して乗せるやり方と、2本指でつまむやり方がある。学年や実態に合わせて指導する。 ○小太鼓 スティックは前へならえをして肘をひく。肘を引いたら「ハ」の字。たたく時は皮から3cmほどあげる。あげ過ぎるとテンポに遅れるのであげ過ぎないようにする。 響き線は使用後必ず緩める。チューニングは対角線に締めていく。 ○大太鼓 太鼓の下3分の1をたたく ○トライアングル ひもは市販のもの以外は閉じ紐よりもテグスのほうがよい（クラベス同様、設置面積を少なく）たたく時やロールの時は基本三角形の底辺部分を打つ。